

# 飯伊 産業経済動向

No.490 2020/1  
(2.25発行)



IIDA SHINKIN BANK  
飯田信用金庫  
地域サポート部  
しんきん南信州地域研究所

http://www.iidashinkin.co.jp  
〒395-0044 飯田市本町1-2  
TEL 0265-53-5811 FAX 0265-53-1132

## 飯伊地区主要経済指標

主要指標		実数	前月比	前年同月比
手形交換高 (飯田手形交換所扱)	枚数	3,114 枚	△ 7.2 %	△ 15.6 %
	金額	4,044,572 千円	△ 9.9 %	△ 25.7 %
うち不渡発生状況	枚数	0 枚	(前月 0 枚)	(前年同月 0 枚)
	金額	0 千円	(前月 0 千円)	(前年同月 0 千円)
倒産件数 (負債額1千万円以上)(12月)	県内	10 件	(前月 8 件)	(前年同月 3 件)
	飯伊	0 件	(前月 2 件)	(前年同月 0 件)
住宅着工戸数 (飯田市、下伊那郡 総数)(12月)		66 戸	△ 32.7 %	50.0 %
有効求人倍率(パートを含む実数) (ハローワーク飯田管内)(12月)		1.49 倍	(前月 1.41 倍)	(前年同月 1.65 倍)
自動車新規登録台数 (松本事務所管内)	新車	2,006 台	△ 0.2 %	6.3 %
	中古車	504 台	△ 23.6 %	10.3 %
軽自動車新規登録台数 (軽自動車協会連合会長野事務所) (12月)	新車	3,360 台	△ 16.7 %	△ 12.5 %
	中古車	876 台	△ 6.5 %	7.1 %
中央道利用台数 (飯田インター分)	入	103,620 台	△ 5.4 %	△ 1.2 %
	出	102,536 台	△ 9.3 %	△ 2.1 %
中央道利用台数 (松川インター分)	入	69,854 台	△ 8.5 %	0.7 %
	出	65,062 台	△ 13.9 %	1.8 %
中央道利用台数 (園原インター分)	入	11,927 台	△ 13.3 %	△ 3.8 %
	出	12,142 台	△ 11.6 %	△ 4.1 %
中央道利用台数 (飯田山本インター分)	入	36,236 台	△ 7.4 %	6.0 %
	出	34,736 台	△ 11.7 %	6.0 %
信用保証協会 新規保証件数 (飯田支店管内)		130 件	△ 37.2 %	3.2 %
信用保証協会 代位弁済件数 (飯田支店管内)		11 件	(前月 2 件)	(前年同月 8 件)
高速バス乗車人数	飯田～新宿	26,833 人	△ 6.3 %	0.4 %
	飯田～名古屋	17,895 人	△ 3.6 %	0.2 %
	飯田～長野	7,957 人	0.6 %	△ 5.7 %
	伊那・駒ヶ根～新宿	21,153 人	△ 6.4 %	0.5 %
市内循環バス乗車人数	左回り	3,224 人	△ 14.0 %	7.0 %
	右回り	3,202 人	△ 17.5 %	11.5 %

◆ 本誌内容は飯田信用金庫ホームページ (http://www.iidashinkin.co.jp) に全文掲載しています ◆

本誌は、当金庫が信頼できると考えるデータに基づき作成されておりますが、データ、記述の正確性、完全性を保証するものではありません。御利用に当たってはご自身の判断によってください。

しんきんは環境にやさしい取り組みを地元のみならずともに行っています。



100%植物性インキ  
[リサイクル紙100%]を使用しました。

再生紙を  
使用しています

# 概況

## 製造業

1月の製造業の業況判断指数(DI)は、マイナス34.6で、前月から24.6ポイント低下。翌月予測もマイナス36.0で、前月から19.3ポイント低下している。

電気、精密機械器具の生産は、前月比やや減少。一部に景況感が悪化した業者も。半導体、液晶製造装置向け部品の生産は、前月比は業者により増減分かれるものの、増加との声が多い。前年比は増加している様子。産業機器や医療機器向け部品の受注残高の前月比は、一部にやや増加との声もあるが、やや減少～横ばいとの声が多い。中国で発生した新型コロナウイルスの影響を指摘する声は多く、「一部の製品では中国の状況で、不透明感が増している」などの声が寄せられた。建築用金属製品の受注は、前月比、前年比とも概ね横ばいで、「引き続き好調に推移。特に都内」との声。自動車向け部品の販売は、前月比減少、景況感悪化との声が寄せられた。小型電磁機器の生産は、前月比減少との声。先行きも弱含みという。FA関連モーターの受注は、前月比やや増加も、「徐々に受注が前月比でプラスになったが、継続して回復基調となるかは不明」との声が寄せられ、景況感の回復には至っていない。「新型コロナウイルスによる中国経済の影響も懸念される」など、先行きの不透明感が増している。光学機器部品の生産は、前月比やや減少、景況感悪化との声。電気、電子製品の生産は、前月比やや減少、先行きも弱含みとの声が聞かれた。

## 地場産業

半生菓子、菓子原料等の売上の前月比は、業者により増減分かれる。一部に、前年比はやや減少との声も。水引製品の販売は、前月比減少。前年比はやや増加～増加。「新型肺炎の影響で今後の不透明感が増している。生産を中国に依存している場合、今後の状況次第で非常に深刻な影響が出ることを懸念している」との声が寄せられた。

## 建設業

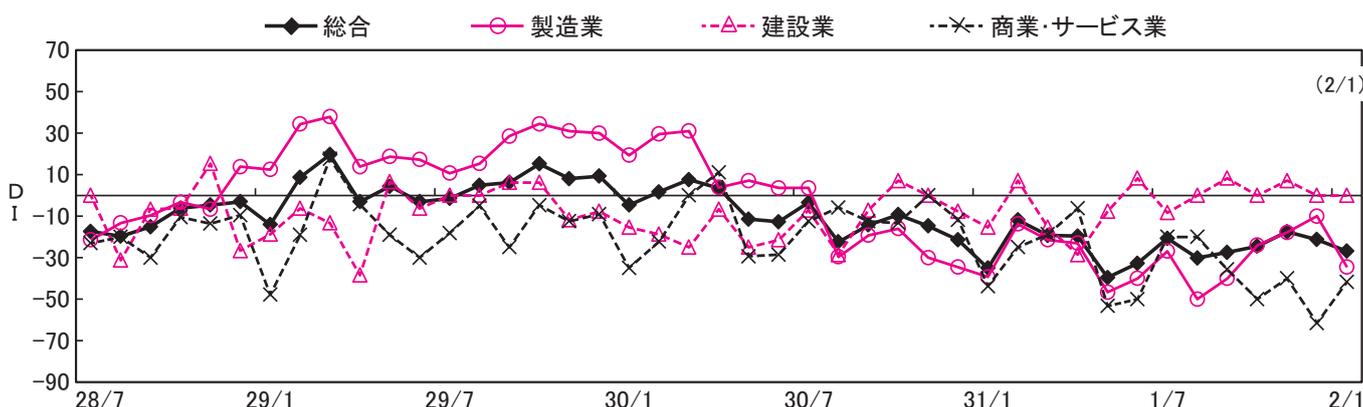
1月の建設業の景況DIは0.0で、前月から横ばい。翌月予測DIは7.1で、前月から7.1ポイント上昇。

当地区における当月の県、市町村発注工事の入札額合計は、約10.3億円、前月比63%減少、前年比も8.6%減少している(2月15日調査時点)。当月の調査先企業の受注残高の前月比は、業者により増減まちまちも、増加との声やや多い。「年度末工期の物件が多い」、「債務負担行為の工事発注が始まっている」といった声が聞かれた。12月の住宅着工戸数は66戸。前月比33%減少、前年比は50%増加。当月の調査先企業の受注残高の前月比は、業者により増減分かれる。「当社としてはまずまずの一般工事が受注できた」、「住宅の新築は、消費増税以後の落ち込みが戻らない様子」などの声が寄せられた。

## 商業・サービス業

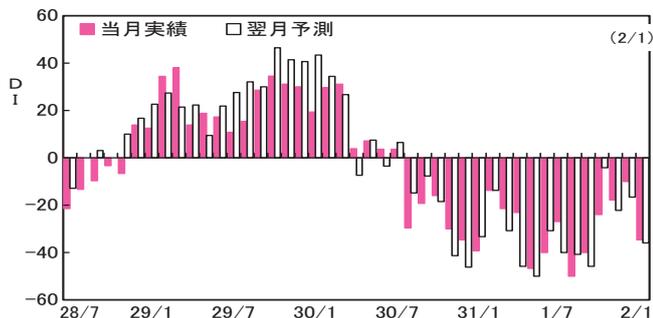
1月の商業・サービス業の景況DIは、マイナス41.7で、前月より19.8ポイント上昇。翌月予測DIは、マイナス57.1で、前月より7.1ポイント下降している。食料品の売上の前月比は、業者により増減分かれるものの、やや減少との声が多い。製菓、製菓用品卸の売上は、前月比やや減少も、景況感に変化はないとの声。家事用品卸の売上は、前月比概ね横ばいも、「一般小売店は厳しい」など景況感は悪化との声。衣料品の売上は、前月比減少も、前年比は概ね横ばい。電化製品の売上は、前月比、前年比とも減少との声。土産物の売上は、前月比概ね横ばいという。先行きの不透明感を指摘する声も。市内料理店の売上の前年比は減少～横ばい。市内宿泊施設の売上は、前月比やや減少も、前年比は増加との声。昼神温泉の売上は、前年比減少。「新型コロナウイルス感染症で、旅行を控える傾向が一層強くなった上に、感染予防の負担が増している。影響は計り知れない。先行きが大変不安」との声が聞かれた。タクシーの売上は、前月比、前年比とも減少という。

飯伊地区景況DI (本誌調査)



## 地区内製造業の景況判断指数

### 飯伊地区景況DI（製造業）



当月実績DI -34.6 (前月 -10.0)

翌月予測DI -36.0 (前月 -16.7)

当月の製造業の業況判断指数（DI）は、マイナス34.6で、前月から24.6ポイント低下。翌月予測もマイナス36.0で、前月から19.3ポイント低下している。

### 新型コロナウイルスに関する情報

本編でご案内する通り、当月は新型コロナウイルスの影響を注視する声が多く寄せられた。そこで、断片的ではあるが、新型コロナウイルスに関する情報をご紹介します。

下表は、信金中央金庫の海外駐在員が現地企業等から聴取した新型コロナウイルス（COVID-19）の影響を報じたレポートを抜粋したもので、東アジア諸国においては、一時ストップしていた経済活動が、徐々に再開、正常化の方向に向かいつつあるという。（なお、本レポートでは東南アジアや米国の動向も報じている。ご用命は当金庫担当者にお申し付けください）

対象国・地域全体の概況	
・東アジア諸国においては、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を大きく受けて経済活動がストップしているが、現在は更なる感染拡大が懸念されながらも、徐々に経済活動が再開・正常化の方向に向かいつつある。	
各国・地域の信用金庫取引先の動向	
中国（華東—上海、蘇州、杭州など）	
信用金庫取引先の動向	・当局から交代勤務を推奨されており、必要最低限の人員で営業している。（卸売業） ・工場は徐々に戻っているが、工場の操業再開は3月末を予定している。（製造業） ・現状出前での営業が中心で、実店舗での営業は今後段階的に再開予定。家賃免除などの対応を受けたものの、当面売上げは厳しい状況が継続する見込み。（飲食業）
現地の様子	・物流について、海路は3月の便が手配できたという話も聞くが回復は道半ばのようで、陸路についても依然として都市間での輸送に滞りが生じている模様 ・海外においては、手元資金に余裕を持たせている企業が多いようで、足元で多少の懸念の声は聞かないが、現在の状況が長引いた場合には局面が変わる可能性があり注視が必要 ・中央政府発表によると、2月26日時点の中小製造企業の再開率は43.1%と23日比で6.2ポイント上昇した。
中国（華南—広州、深セン、東莞など）	
信用金庫取引先の動向	・操業は再開できたが、工員が戻ってきておらず、人員としては通常の7割程度。現在は、春節前に製造したものを発注するが中心で、本格的に稼働するのはまだ先になると思われる。（製造業） ・いつもは日本から広州の事務所から1回出張しているが、渡航が困難になったため、現地スタッフに執行をまかせている。いつ行けるか見通しが立たない。（商社）
現地の様子	・深センの各港湾は、正常化しつつあるものの、港湾と各地域を結ぶトラックのドライバーが戻ってきていないため、運送業者によっては通常の半分も稼働していない模様。また、地方政府による日本と韓国国籍の居留者の所在確認が行われている様子
香港	
信用金庫取引先の動向	・香港と中国本土の物流機能は正常化しつつあるが、オーダー自体が減少しており、早晚業績への影響が出てくると懸念される。一部のスタッフは在宅勤務が続いている。（物流）
現地の様子	・香港政府は、学校の登校再開を4月20日まで延期した。また、政府関係者から日本からの旅客に対し、入港後14日間の自宅待機を「提案」するとし、今後も情勢を注視すると発言したため、一度香港を離れると、戻ってくるのが難しくなるのではないかと懸念する関係者が出てきている。
台湾	
信用金庫取引先の動向	・コロナウイルス問題による操業への影響はなく通常営業。ただし、景気全般が冷え込んできている印象があり、業績については明るい見通しは持ちにくい。（製造業）
現地の様子	・現地ビジネスは平時モードを保っているが、観光・飲食は少なからず影響を受けている模様。日本人観光客の数は少なくなっているものの、また姿を見かける。

上記で言及した国・地域への渡航の安全性等を保証するものではなく、また信金中央金庫が信頼できると考える各種データにもとづき作成していますが、信金中央金庫が正確性および完全性を保証するものではありません。（資料：信金中央金庫「海外現地レポート」）

こうした中国国内の動向は他の機関からも伝えられており、JETOROによると、2月25日時点で四川省の一定規模以上の工業企業1万4,560社のうち1万3,398社

が再開済みで、再開率は9割を超え、従業員の復帰率は61.1%（163万8,000人）となっているほか、遼寧省でも、2月21日時点の再開率は83%に達したというが、国家発展改革委員会、中国物流情報センターが中心となって、物流企業に対し行ったアンケート調査によれば、物流企業における従業員の職場復帰率は、「50%未満」との回答が調査期間1週目には67.5%、2週目にも69.1%を占め、復帰が遅れている状況が明らかとなったとしている。

中国自動車工業協会によれば、中国の新車販売は、1月には減少していたが、2020年の春節（旧正月）休暇が1月24～31日であり、2019年1月に比べて営業日が5日少なかったのが主な原因で、新型肺炎による影響は限定的との見方をしている。一方、乗用車市場情報联席会（CPCA）の発表によると、2月以降の販売動向について、2月1～16日の乗用車販売台数は1日当たり2,249台となり、前年同期の販売台数2万9,090台の10分の1以下に落ち込んだという。

中国国内の1～2月前半までの乗用車販売台数（1日当たり）（台、%）

販売期間	2019年	2020年	前年同期比
1/ 1～12日	56,610	49,475	△ 12.6
1/13～18日	65,982	86,372	30.9
1/19～31日	75,346	38,611	△ 48.8
2/ 1～9日	22,965	811	△ 96.5
2/10～16日	36,965	4,098	△ 88.9

（資料：JETORO「ビジネス短信」）

## 機械加工製造業

電気、精密機械器具の生産は、前月比やや減少。一部に景況感が悪化した業者も。先行きも弱含みとの声が多い。一部に設備面で積極的な声が寄せられた。当月、原材料、資材価格や販売価格に大きな動きはなかったという。

半導体、液晶製造装置向け部品の生産は、前月比は業者により増減分かれるものの、増加との声が多い。前年比は増加している様子。景況感の好転には至らないものの、「米中貿易摩擦、中国発の新型肺炎の影響で先行き不安はあるものの、春先以降の受注増加に向け仕掛増加を図る」「5G関連、半導体メモリー関係などが動き始めた」「少しずつ上向きになりそうだが、コストダウンの時期」といった声が寄せられた。「一部製品良好」「3月以降の納入分増加。開発品も増えている」「FPD関連は悪化」などの声。一部に、当月、原材料、資材価格がやや上昇との声。雇用面で「やや不足。若干名の補充を予定」「派遣社員で増員」など積極的な声が複数。設備面でも積極的な声が複数ある。

産業機器や医療機器向け部品の受注残高の前月比は、一部にやや増加との声もあるが、やや減少～横ばいとの声が多い。これには「年末年始で休日が多く、仕事量は大幅減」といった事情もある様子で、「一部の製品は、在庫調整の山積みが一段落した感」「中国、韓国向けの製品は落ちたままだが、台湾向けは増加」

「先月低下したが、当月は例年プラスアルファといったところ」などの声も聞かれた。とはいえ景況感が悪化した業者も複数あり、「話はあるが、発注は思ったように来ない」「大口が少なく売上が増えない」「一時的には動きが出たところもあるようだが、全体的には動きが悪い」「自動車関係の客先の仕事が減少している」などの声も聞かれた。中国で発生した新型コロナウイルスの影響を指摘する声は多く、「影響がどこまであるのか予想がつかない」「一部の製品では、中国の状況で不透明感が増している」「米中貿易摩擦に加え、中国発の新型コロナウイルスで市場は悪化傾向」などの声が寄せられた。

設備面では、一部に積極的な声もあるが、現状維持との声が大勢。雇用面でも、「退職者の補充」「不足。採用予定」といった声もあるものの、現状維持との声が大勢を占める。原材料、資材価格に大きな動きはなかった様子も、「運送費の値上げが響く」という。製品価格に関し、「コストダウンの要請がある時期」「相見積もりが多くなり、厳しい」などの声が寄せられた。

**建築用金属製品**の受注は、前月比、前年比とも概ね横ばいで、「引き続き好調に推移。特に都内」との声が寄せられた。原材料、資材価格に関し「今後、各種ガスが上昇との報がある」という。雇用面、設備面で積極的な声が聞かれた。

**自動車向け部品**の販売は、前月比減少、景況感も悪化との声が寄せられた。先行きに大きな動きは見込まれていないという。

**小型電磁機器**の生産は、前月比減少との声。先行き弱含みという。今後、原材料、資材価格の上昇が見込まれている。

**FA関連モーター**の受注は、前月比やや増加も、「徐々に受注が前月比でプラスになったが、継続して回復基調となるかは不明」との声が寄せられ、景況感の回復には至っていない。依然「中国における貿易摩擦の影響が国内販売で出ている」ほか、「新型コロナウイルスによる中国経済の影響も懸念される」など、先行きの不透明感が増している。

**光学機器部品**の生産は、前月比やや減少、景況感も悪化との声。先行きも弱含みという。原材料、資材価格が当月わずかながら上昇との声。設備面で積極的な声が聞かれた。

**電気、電子製品**の生産は、前月比やや減少、先行きも弱含みとの声が聞かれた。「コロナウイルスの関係で、中国の生産に不安定要素がある」との声が聞かれた。

## 地場産業

**半生菓子、菓子原料等**の売上の前月比は、業者により増減分かれる。一部に、前年比はやや減少との声も。「就業日が少ない割に思ったより忙しい」など景況感が好転した業者も見られる一方で、景況感の悪化には至らないものの、「コンビニ導入品目の減少、輸出減少が影響」といった声も。消費増税の影響に関し、「あまりないと感じている」との声の一方、「消費増税以降、消費が落ちている様子もある」との声も寄せられた。先行きに関し、「コロナウイルスと土産物販売の不振がどの程度響くか注視している」との声が聞かれた。雇用面、設備面で積極的な声も。

**水引製品**の販売は、前月比減少。前年比はやや増加～増加。「新年を迎えたが、商売は閑散としている」「継続性のない商品が増え、利益は上がっているが、不安定。次に作る商品が難しい。目下は多事多端とはいえ、一步抜け出す商品が欲しい」「政府はキャッシュレス化を推進しているが、まだ祝儀、不祝儀に現金が使われている内に、先を見た商品を追い求めるしかない。業界全体で取り組む必要があるのでは」などの声。「新型肺炎の影響で今後の不透明感が増している。生

産を中国に依存している場合、今後の状況次第で非常に深刻な影響が出ることを懸念している」との声が寄せられた。原材料、資材価格がやや上昇との報が寄せられた。

## その他製造業

**食品関連包材**の生産は、前月比減少との声。当月、原材料、資材価格に大きな動きはなかった様子も、先行きは上昇を見込んでいるという。

**印刷、出版関連**の売上は、「例年1月は仕事が少ない」こともあって、前月比減少との声。「年度末の契約時期となり、官庁関係の見積もり依頼が増える。競争も激しくなってくる時期」という。「業績を安定的に維持するためにも、定期的な安定した仕事を確保していくことは重要だと思う」との声が聞かれた。雇用面、設備面で積極的な声が聞かれた。

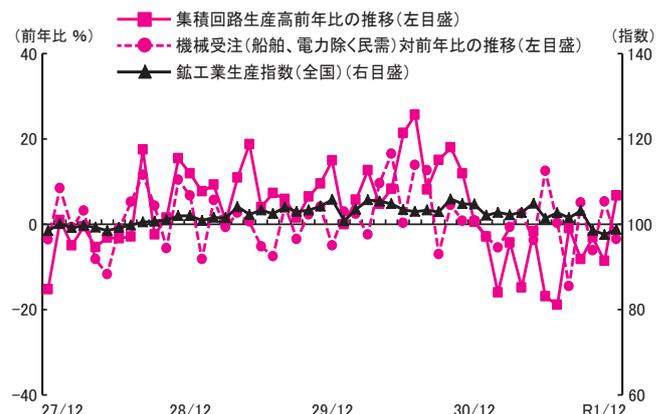
**衣料品**の販売は、前月比やや増加、前年比概ね横ばいとの声。「中国で発生した新型コロナウイルスの影響で海外生産が見えてこない。商品入れ替えが遅れて在庫が少し捌けるとはいえ、売上に大きな影響がありそう」などの声が聞かれ、景況感悪化している。「業界全体に海外生産分が国内生産に振り替わる流れがあるが、国内は外注先も含めて満タン状態で、春夏物の納期遅れが頻繁に発生。売場に商品を置けない状況が起こっている」という。雇用面、設備面で積極的な声も。

**住宅機器、オフィス家具、店舗用什器**の生産は、前月比、前年比ともやや増加との声。しかし、「春までは良好との話もあったが、予想より早く減速し始め、下げ幅も予想を上回っている」「同業からも、4月まで良好な受注を見込んでいたものが、今月後半から仕事が薄くなってきているとの声も」など、先行きは弱含んでいるという。「今年はオリンピック期間中のトラック乗り入れ規制に絡んで工事をずらすといった話やらで景気は下向きでは、と言っていた矢先に新型コロナウイルスの影響が追い打ちを掛けそう。上向きの要因が見当たらない」との声が聞かれた。雇用面、設備面で積極的な声も。

### 【企業からのコメント】

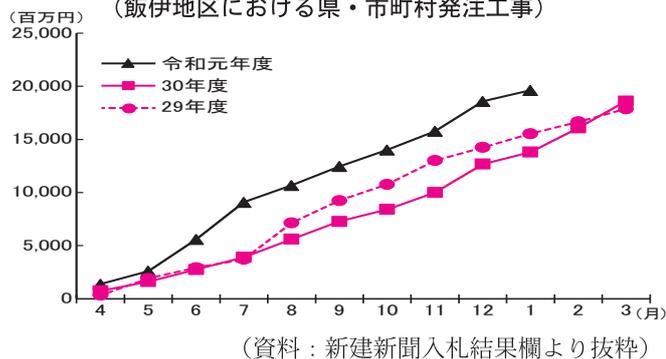
- ★11月のアメリカ大統領選挙も不確定要素。注視している。
- ★更新投資が急務で、2月に計画している。しかし、年末に計画していた分はペンディング。
- ★省力化投資を実施。更新投資も計画中。
- ★求人継続しているが、反応が少ない。
- ★目下の状況では後継者へのバトンタッチが難しい。
- ★「半導体は忙しくなるとの情報がある」「半導体向けで動き出したとの声」

## 集積回路、機械受注・鉱工業生産指数の推移



## 入札額累計の推移

(飯伊地区における県・市町村発注工事)



(資料：新新聞入札結果欄より抜粋)

当月景況DI 0.0 (前月 0.0)

翌月予測DI 7.1 (前月 0.0)

## 官公需

当地区における当月の県、市町村発注工事の入札額合計は、約10.3億円、前月比63%減少、前年比も8.6%減少している(2月15日調査時点)。

当月の調査先企業の受注残高の前月比は、業者により増減まちまちも、増加との声が多い。「年度末工期の物件が多い」「年度末に向けて工事完成に努める」「各官庁で不調物件が少なくなっている」といった声や、「補正予算の工事が発注になり始め、多忙。年度末の工事完成後も引き続き受注が見込め、仕事が切れなさそう」「債務負担行為の工事発注が始まっている」といった声が聞かれた。

一部に「当社の周りでは、今年度は防災関連工事が少ないし、大型工事も少ないが、その分外注費も減っている」といった声も寄せられたが、多くの業者で前年比は増加しており、「国土強靱化、防災、減災の関連で公共工事は増えている」「建築はさほどではないが、土木は法面工事、浚渫、三遠南信自動車道工事、舗装工事、リニア関連工事などで多忙」などの声が聞かれ、繁忙が続いている様子。

こうした中、「技術者がもっといれば良いのだが」「業務量はあるが、技術者が不足」「建築技術者、営業の募集を続けている」「施工社員が不足」「人員は長期的に不足」など、特に技術者を中心に人員の不足感が強いが、「各社求人続けているのに、採用が見込めない様子。新卒者の採用数も少なそう」など、雇用面で思うに任すことのできない様子が窺える。

## 民需

当地区の12月の住宅着工戸数は66戸。前月比33%減少、前年比は50%増加。

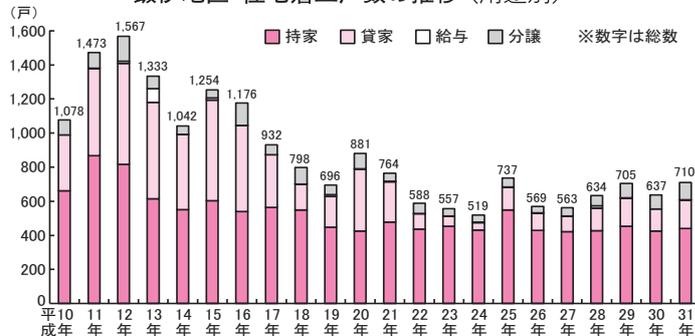
当月の調査先企業の受注残高の前月比は、業者により増減分かれる。「当社としてはまずまずの一般工事が受注できた」「新築住宅はまずまずだが、リフォームは少ない」といった声が聞かれたほか、「リフォーム工事があるのみで受注残はやや減少」「住宅、内装、左官といった工事は例年より案件が少ないのでは」「住宅の新築は、消費増税以後の落ち込みが戻らない様子」「一般、公共とも建築は少ない」といった声が寄せられた。「ここ何年か、この時期に仕上がる仕事が結構あったが、今年はない」など、当月、完工高がさほど上がっていないとの声も。

雇用面の不足感を指摘する声も聞かれる中、「1名採用。新卒者も予定している」との声が聞かれた。

## 飯伊地区の、平成31年、令和元年住宅着工戸数

当地域の、平成31年、令和元年の住宅着工戸数は、710戸で、前年比12%増加。用途別に見ると、持家は441戸で、前年比4%増加。給与は1戸。貸家、分譲の増加率は大きく、貸家は167戸で前年に比べ30%増加、分譲は101戸で22%増加していた。

## 飯伊地区 住宅着工戸数の推移(用途別)



(資料：長野県住宅部)

## 建設資材

鋼材の売上は、前月比、前年比とも減少、「大きな落ち込み。客先に好調な業種はなく、景況はますます悪化。鋼材流通全体が低調となっている」との声。こうした「荷動きの低調さが価格の弱含みをもたらしており、「鋼種によっては値を下げているものも出始めた」という。先行きに関しても、「好材料がなく、展望が開けない」との声が聞かれた。

生コンの売上は、前月比、前年比とも、概ね横ばい～増加。景況感が好転した業者も見られるものの、「土木工事は発注されているが、生コンを使う仕事は少ない。同業者も落ち込んでいる様子。業界の春はまだ遠い」などの声も。当月の主な出荷は、「三遠南信自動車道工事、護岸工事、砂防堰堤工事、床固工事、発電所工事、マンション新築工事に関わるもの」で、「リニア関連工事の出荷量は、当月出荷量全体の4%程度」という。

骨材の売上は、前月比、前年比とも業者により増減分かれる。「主力の生コン向けの出荷が、依然少ない」などの声が寄せられ、景況感が好転した業者は見られない。販売単価が値上がり傾向との声も。

### 【企業からのコメント】

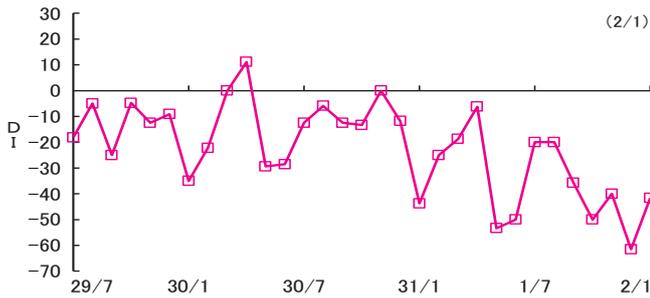
- ★大型運転手が不足。リニア工事が本格化する頃には、高齢化が進み、不安がある。
- ★大型ダンプカーが非常に忙しい。ダンプカーの常備価格などの運搬費も上がる雰囲気。
- ★北信、東信では台風による災害復旧関連工事で多忙の様子。
- ★災害対応の受注がある。
- ★製造業では仕事の薄いところもあると聞く。

### 住宅建築確認申請受付状況(※本誌調査による概数)

- 1月 ○飯田建設事務所  
 新築 8件 (前年 8件)  
 増築 1件 (前年 2件)
- 飯田市役所  
 新築 19件 (前年 31件)  
 増築 0件 (前年 3件)
- ※指定確認検査機関分を含む

# 商業・サービス業

商業・サービス業DI



当月景況DI	-41.7 (先月 -61.5)
翌月予測DI	-57.1 (先月 -50.0)

## 商業

食品の売上の前月比は、業者により増減分かれるものの、やや減少との声が多い。「人口減少による来店客数の減少が、売上の減少につながっている」「食品、酒類の売上が減少傾向」などの声が寄せられ、景況感が好転した業者は見られない。先行きは弱含みとの見方が多い。

### 【青果卸売市場】

販売は「前月は年末で売上が多かった」ため前月比減少も、前年比は若干増加という。

野菜は、「正月明けから動きは鈍いが、暖冬で菜類の出荷量が多かった。野菜全体では入荷量10%減。価格は昨年が非常に安値だったため、7%高」という。

果実は、「出荷が遅れていた市田柿は、年明けの入荷も多く5割増し。苺は前年並みで、価格は1割高。みかんは不作で4割減。果実全体では入荷は16%減も、市田柿の量多く、価格は28%高」という。

製菓、製菓用品卸の売上は、前月比やや減少も、景況感に変化はないとの声。先行きは増加を見込んでいう。

家事用品卸の売上は、前月比概ね横ばいも、「一般小売店は厳しい」など景況感は悪化との声。「新型肺炎の影響が出てきている」との声も。当月仕入単価がやや上昇したというが、「値上げは厳しい」など価格転嫁は難しい様子。

衣料品の売上は、前月比減少も、前年比は概ね横ばい。「前年比概ね横ばいも、スポットの大口があったため、これを除いた実質では減少。需要は弱く、一人当たり販売単価が大幅に減少している」「当月は前年並みも、前月は前年に比べ悪かった。暖冬で冬物防寒衣料が伸び悩んでおり、メーカーでも軒並み売上が落ちているという」などの声。

電化製品の売上は、前月比、前年比とも減少との声。「暖冬の影響で季節商品が不調」「LED照明、設備工事、火報工事等は現状維持だが、日中貿易摩擦の影響が薄れてきて、工場関係の大規模な設備投資が徐々に出てきた。とはいえ、新型コロナウイルスに端を発した中国経済の停滞から、設備投資は縮小される可能性もある。また、中国は世界の工場として大きな役割があり、主力生産基地にしているメーカーが多く、商品の納期未定や、代替商品の価格上昇といった事象が見えてきている。今後の動向を注視したい」などの声。

土産物の売上は、前月比概ね横ばいとの声。先行きの不透明感を指摘する声も。

## サービス業

市内料理店の売上の前年比は減少～横ばい。「中盤から良かった。新年会は前年同様。常連さんはありがたい」「暖かい正月で鍋物が出ない分、客単価は良かった」といった声のほか、「日々の繁忙感は昨年と同じように感じたが、売上は前年同月比減少。消費増税のあった昨年10月から前年同月を割り込む月ばかり。消費増税以後、各家庭の財布の紐が絞まった感」「今まで単月で前年同月を下回ることがあっても、3か月で均すとプラスになることが多かったが、昨年様子は打って変わり、3か月で均しても回復する月がない」などの声が寄せられた。

市内宿泊施設の売上は、前月比やや減少も、前年比は増加との声。「例年12～2月は、平日の稼働はともかく、観光需要がなく、週末の稼働が少ない。次月は、これに加え日数が少なく、売上はどうしても落ちる。3月以降に期待」などの声。

昼神温泉の売上は、前年比減少。「正月は例年通りだったが、正月明けの予約が非常に少ない。スキー客、忘、新年会がほとんどなかった。ウインターナイトツアーは毎日数名の予約があった」「日本一の星空は都会でもある程度メジャーになったと思うが、昼神温泉郷とセットになっていないのでは。温泉の知名度を上げる必要を感じる」などの声。人手不足が続いており、「賃金が上昇傾向にあっても不足は解消しない」「外国人学生を雇ったが、サービスに影響が出る場合もある。その上、派遣社員並みの賃金が必要で、人件費率が高くなった」などの声。「新型コロナウイルス感染症で、旅行を控える傾向が一層強くなった上に、感染予防の負担が増している。影響は計り知れない。先行きが大変不安」との声が聞かれた。

タクシーの売上は、「消費増税の影響か、落ち込みが止まらない」など、前月比、前年比とも減少との声。「消費増税、温暖化、景気の落ち込みなどマイナス要因が多く各社経営状況は楽観できない中で、運賃値上げを予定。お客様の信頼を得るべく、業界全体で、サービス向上に努める必要がある」との声が寄せられた。LPG価格は「微増傾向」という。

### 【企業からのコメント】

- ★キャッシュレス化で、クレジットカード手数料が増加している。
- ★「新型コロナウイルスで在庫のマスクもほぼ完売。入荷の見込みは立たない」「新型コロナウイルスで景気は悪くなるのでは」。
- ★デジタル化が進む中、飲食店では会話が大切。

### 【特別調査 高校生のカード、キャッシュレス事情～飯田信用金庫 高校生向け金融教育アンケートから】

飯田信用金庫では、高校生を対象として、卒業後の自立に向け、身の回りのお金の動きについて出前講義を行っている。

今年度講義を行った当地域の複数校の高校生に、何らかのカード、キャッシュレス決済手段を保有しているか聞いたところ、「保有している」とする学生が59%を占めた。保有しているとする学生に、何を使用しているか聞いたところ、キャッシュカードの他、Suicaなど、チャージ型の決済手段を利用している学生が多いことが明らかになった。

何らかのカード、キャッシュレス決済手段を保有していますか(人、%)

保有している 59%	保有していない、無回答 41%
------------	-----------------

どのようなカード、キャッシュレス決済手段を利用していますか (複数回答 件)

キャッシュカード	Suica	nanaco	WAON	クレジットカード	PayPay	メルペイ	LINE Pay	その他
32	39	27	11	8	22	11	13	22

## 変わるビジネスモデル

飯田信用金庫 地域サポート部 企業経営サポート課  
 中小企業支援アドバイザー 佐々木信高

中国に端を発した新型コロナウイルスによる肺炎が世界中に拡大の様相をみせています。依然収束の見通しがつかず、今後人命や経済への影響が懸念されています。大事に至らないことを心から願うものです。

さて、昨年暮れに、大手外食チェーンが「元旦営業」「24時間営業」を廃止する旨のニュースが流れました。インタビューで、30歳代の店長が「やっと家族と一緒に初詣に行けます」と笑顔で応えていた姿を見て、素直にうれしく思いました。

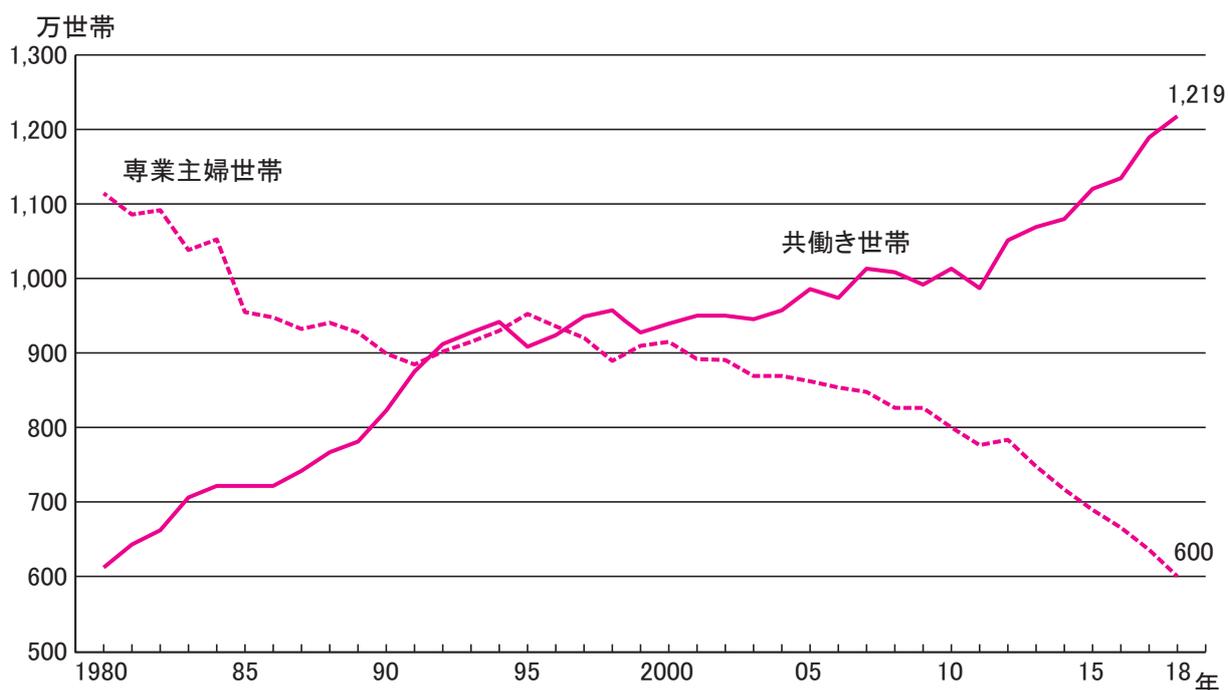
いまや「元旦営業」や「24時間営業」は、外食チェーンに止まらず、コンビニ、大型スーパー等、地方においてもあたり前の状況になっていますが、今年に入ってから、いくつかの外食チェーンやコンビニ大手が、24時間営業や元旦営業を廃止する方向だと報道されています。背景には、業界で常態化している人手不足や深夜営業の人件費の高騰、コンビニオーナーの負担軽減などがあるものと思います。

今や、どこにでもある大型スーパーやコンビニですが、かつては、飯田・下伊那地域には、コンビニや大型店はありませんでした。地域の小売業の皆さんの年末年始は、官庁の御用納めが終わると大掃除をして店じまい、丘の上商店街の初売りは、2日以降。朝、暗い内から始まり、常日頃の感謝を込めて、来店したお客様にお神酒やお汁粉などを振る舞いながら福袋や初売り商品を販売していました。

その後、この地域にも大型スーパーや大型量販店の出店が始まりました。当初は、地元の中小零細小売業への影響を最小限に抑える意味で、大型店に、営業日数、営業時間、店舗面積、休業日数など法律の規制をかけることができましたが、1990年代に入り、大店法（大規模小売店舗法）の出店規制が緩和され、地域の主要道路には、スーパーや大手流通店舗の大型店の出店が相次ぎました。この頃から、元旦から営業する店舗も出始め、地域の商工団体と自治体は、地元小売業者と初売り営業日の歩調を合わせるよう大型店に要望しましたが、実施には至りませんでした。

同じ頃、コンビニの出店が始まりましたが、当初の営業時間は、朝早いものの深夜営業もなく、極めて普通の小売店舗でした。その後、主婦、サラリーマン、学生、夜勤明けの労働者等の様々な時間に対応できるようにと、

図1 専業主婦世帯と共働き世帯 1980年～2018年



〈出所：厚生労働白書 専業主婦世帯と共働き世帯 1980年～2018年〉

都心を中心に24時間営業（深夜営業）店舗のチェーン展開が始まりました。さらに消費者の生活の多様化に応えるために宅配便の取次ぎ、公共料金の収納サービス、銀行ATM設置、郵便事業まで幅広く消費者の利便性を掲げ、24時間営業を売りにするコンビニが、「開いて良かった」のCMとともに全国各地に出店していきました。

こうしたビジネスモデルが波及した大きな理由は、家庭の生活形態が専業主婦世帯から共働き世帯へと変わってきていることが大きく影響しているものと思われます。先の図1のグラフは、コンビニ出店が始まった1980年代から、年を追うごとに専業主婦世帯が減少し、共働き世帯が増えていく様子が見られます。つまり、家庭にいた主婦も働きに出かけるようになり、24時間営業で、なおかつ、そこに行けば何でもそろそろコンビニの利用が進んだものと思います。

長い間続いたコンビニ、外食チェーン、大手スーパーの、「元旦営業」・「24時間営業」・「年中無休」といったビジネスモデルですが、これが徐々に廃止の方向へ変わっていく背景には、二つの要因があるのではないかと思います。

一つには、小売業界、外食業界が、他業種に比べると休みが取れない等働き方改革が難しい業種で、常に有効求人倍率が高く深刻な人手不足を抱えていること。

二つには、小売業界では、ネット通販の普及や発達によって24時間営業や元旦営業する必要性や需要が減りつつあるのに、年々人件費は高騰し、年末年始に営業しても以前のように利益が上がらなくなってきている点もあるかと思えます。さらに「うちの会社は年末や年始に休める」という姿勢をアピールして、従業員の満足度や企業のイメージアップを図り新規採用に結びつけたいという考え方もあると思います。

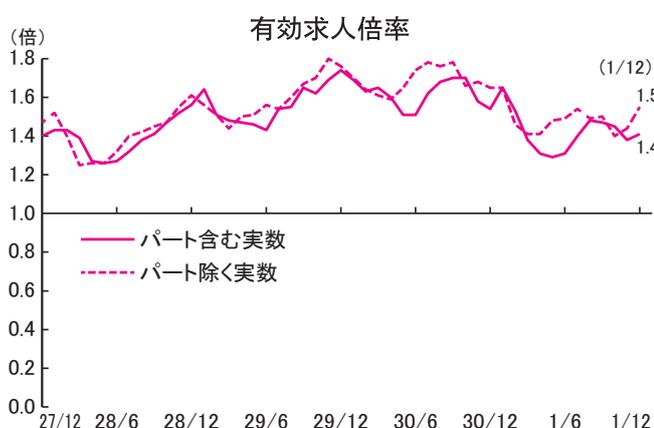
「いつでもどこでも開いている」を売りにしてきた店舗が元旦を休むというのは、経営者にとって売上減に繋がる可能性があり勇気の要ることでありますが、消費者の方にも、「年中無休や24時間営業は当たり前」という考え方から、同じ労働者として「24時間営業や元旦営業まで必要なか？多少の不便は我慢しようじゃないか」そんな考え方の芽生えが、ビジネスモデルの転換点になってきているのではないのでしょうか。

飯田信用金庫では、2名の専門アドバイザーによる継続的な事業支援を行っています。

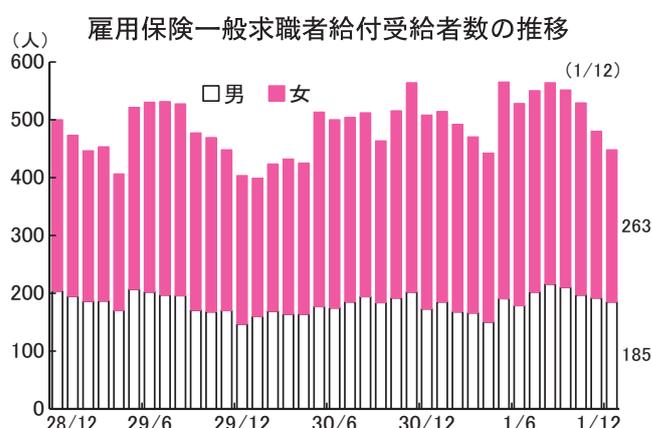
今回執筆を担当した当金庫専門アドバイザー 佐々木信高 は、商工会、商工会議所で地元中小企業の支援業務に長く携わった経験を基に、皆様の課題の解決に向けた取組のお手伝いをさせていただきます。

ご用命は、お取引の支店、または 飯田信用金庫 地域サポート部 企業経営サポート課（飯田市本町1-2 飯田信用金庫4階 TEL 0265-53-5811 FAX 0265-53-1132）まで お気軽にお申し付けください。

## 雇用の状況



12月の月間有効求人倍率は、パートを含む実数で1.49倍と、前月から0.08ポイント上昇。パートを除く実数も1.55倍で、前月から0.11ポイント上昇している。



12月の雇用保険一般求職者給付の受給者数は前月に比べ、男性は7人減少、女性も25人減少、全体では448人と前月から32人減少している。

(資料：ハローワーク飯田)

## リニア新幹線沿線信用金庫共同調査

### リニア中央新幹線に関するアンケート調査結果概要(3)

#### ～ 長野県・飯伊地域への期待は中間駅地域で上位？ ～

リニア沿線信用金庫（山梨県：甲府・山梨信金、岐阜県：東濃信金及び当金庫）共同調査の当県・地域分調査結果の続きを紹介する。

#### 1. リニア沿線への認知度・訪問度

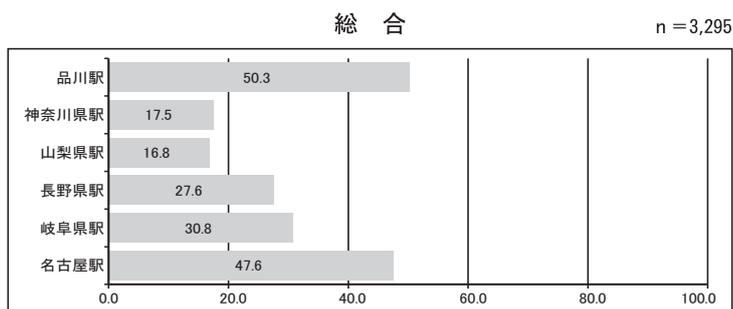
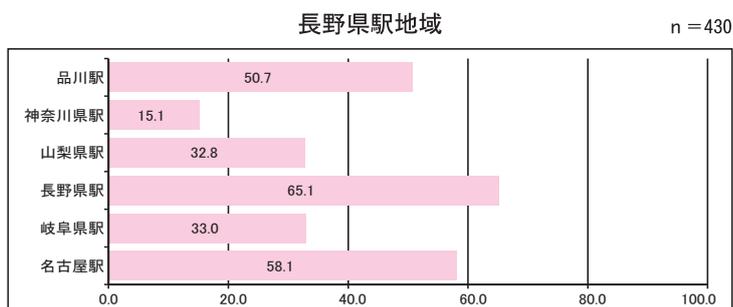
リニア沿線地域共同調査を進めてきたのはリニア開通を見据えて沿線連携に繋がる可能性を見出したい、との思いによるものであることから、先ず相互の地域への認知度、交流の度合いをみるため、それぞれの「駅（駅地域）にいったことはありますか」をお訊きした。グラフの比率は各地域の総回答者数（サンプル数）に対する「行ったことがある」とする回答者の比率である。

当地域では、「長野県駅予定地へ行ったことがある」がいちばん多く、これは当然として、名古屋駅と品川駅がこれに続く。当地域においては名古屋駅がやや多い、という結果になっている。山梨・岐阜県駅がほぼ同水準。神奈川県駅が、いちばん訪問度合いが低い（馴染みがない）駅地域であるといえる。

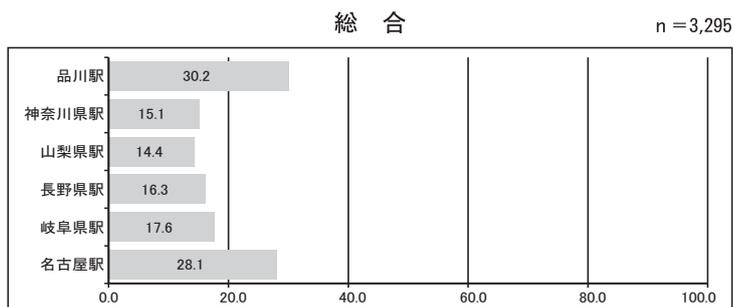
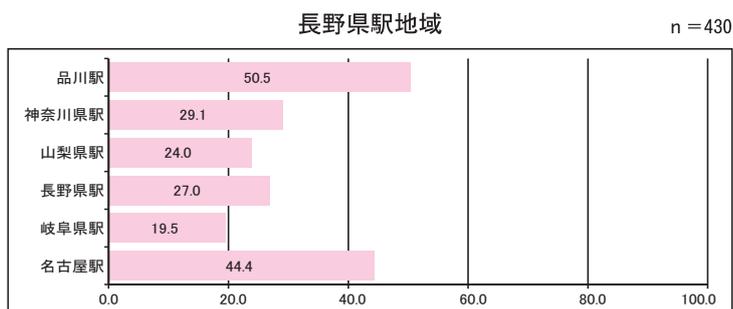
これが「開通後に行ってみたい」の当地域では、品川駅と名古屋駅が並んで多いが、こちらでは品川駅が名古屋駅を上回っている。いちばん馴染みがなかった神奈川県駅が品川・名古屋両駅について高い比率の（訪問希望の多い）駅となった。

総合（調査地域の神奈川県から愛知県までの合計、以下同じ）では、同じく品川・名古屋の終・始発駅が高く、ここでも品川駅がやや上回っている。中間駅では、岐阜県駅、次いで長野県駅、神奈川県駅、山梨県駅の順となっている。

Q 「下記の駅（駅地域）に行ったことがある」



Q 「開通後に行ってみたい」



## 2. 連携可能性は終・始発駅に集中

リニアによる連携可能性のある駅（駅地域）について訊ねた。

当地域では、連携可能性があるとする駅（駅地域）は、品川駅と名古屋駅がほぼ同水準で70%後半となり、品川駅がやや多い状況となっている。中間駅では地元長野県駅に続いて、山梨県駅、岐阜県駅、神奈川県駅の順となった。

総合でもほぼ似たような傾向を表わしているが、品川駅と名古屋駅では品川駅の方がやや高い（差がついている）状況である。中間駅各駅は長野県地域の結果と同様、終・始発駅に比べ低いが、その中で長野県駅は他よりやや高くなっている。中間駅地域総体での回答で長野県駅(地域)に対する見方として、注目すべきことと思われる。

## 3. 連携可能性のある項目は何か

リニア駅地域の連携可能性について、どんな項目に可能性があるか、調査では、「移住・定住」「通勤・通学」「ビジネスマッチング」「ショッピング」「観光・イベント」「医療・福祉」「教育・人材」「BCPなど危機管理」「その他」を例示し、解答を求めた。ここでは、各項目への回答（複数回答）の合計を分母とした比率で算出している。

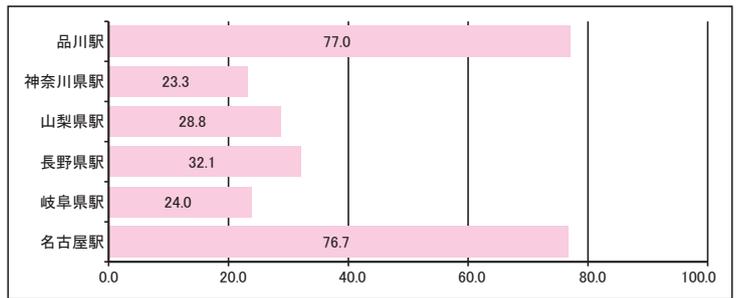
当地域の長野県駅に対する連携可能性項目では「観光・イベント」がトップ。「移住定住」「通勤・通学」がほぼ同水準で「観光・イベント」に次いだ。その他では「ショッピング」「ビジネスマッチング」「医療・福祉」「教育・人材」「BCP」「その他」と続く。

それでは、全地域が長野県駅地域に対しどうみているかが右グラフであるが、「観光・イベント」が突出して高い。注目すべきは「ビジネスマッチング」が2番目に位置していること。他地域が当地域のどんな分野にビジネスマッチングの可能性を見出しているのか、気になるところである。

### Q 「何らかの地域連携の可能性はある」

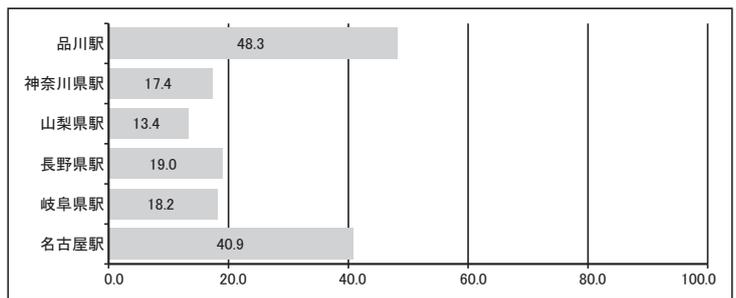
長野県駅地域

n = 430



総合

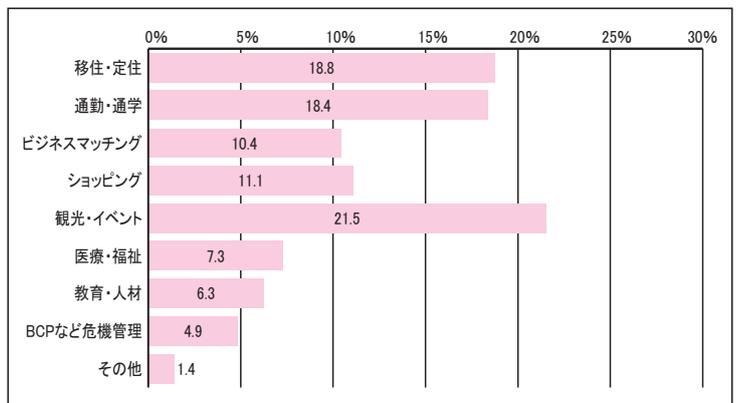
n = 3,295



### Q 「どの分野に可能性があるか」

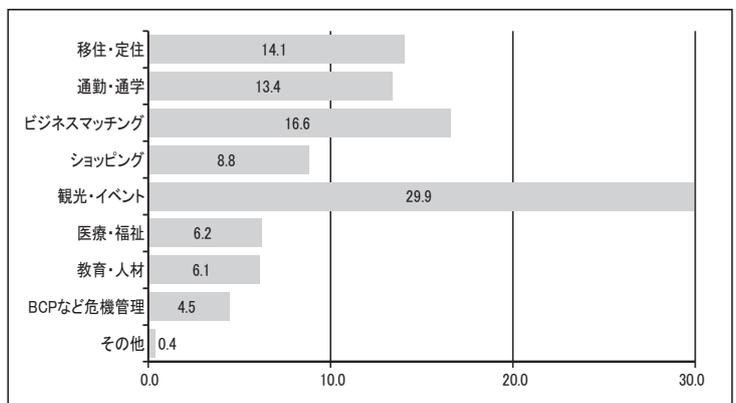
長野県駅について（長野県駅地域）

n = 288



長野県駅について（総合）

n = 1,607



(飯田信用金庫 地域サポート部 リニア対策課 加藤 修平)